

第3分科会 特別支援学校

地域とともに歩む特別支援学校づくり ～幼児児童生徒の自立を図る～

発 表 者 山梨県立ろう学校 校長 中村 知佳
学校運営協議会 副会長 雨宮 清貴（創造工房くわの家 施設長）

学校所在地	幼児児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
山梨県山梨市	37名	令和4年度	15名	3回	0名

学校教育目標

幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む

地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

学校・地域の特徴

- 乳幼児から高等部までの子どもが学ぶ拠点校である。
- 聴覚障害の専門性が高い人材や機関との関係が深い。
- 地域との結びつきは強く、保育園や学校、福祉施設、自治会等との交流が盛んである。

学校運営協議会の概要

委員の構成

- ・保護者の代表
- ・地域住民の方
- ・校長、教頭、教職員
- ・学識経験者
- ・地域の産業界の代表者
- ・行政機関の関係者
- ・**学校運営に資する活動をしている方**

これまでの主な議題例

- ※学校教育目標
- ※学校運営方針、活動内容
- ※各学部の教育課程、様子
- ※幼児児童生徒の課題、進路
- ※施設、設備に関する課題
- ※地域交流、共同学習の様子
- ※学校評価の検証
- ※きこえとことばの相談支援センターの活動

聴覚障害にかかわる専門家が学校運営協議会に多く参画しているため、学校の課題が明確になり、学校では体験できない学習につながっている。

聴覚障害による生活上の困難さを克服して自立を図る。

知識技能を身につける機会を提供

↓

一雨宮委員から

学校の資源を地域へ～（自立に向けて）～

- ◎本校の強み
 - ・教員時代の経験から
 - ・実習生などを受け入れた経験から
- ◎委員としての提言
 - ・学校の施設、設備の活用（ハード）
 - ・教職員の活用（ソフト）

運営協議会で出てきた意見

地域を知る活動 地域に知ってもらおう活動 地域とともに行う活動を増やす

児童生徒による情報発信を積極的にやってほしい

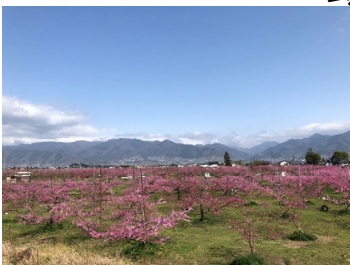
図書室の開放をしてほしい

異年齢集団を活用した活動を増やしてほしい



1 山梨県立ろう学校 学校概要

桃源郷と称される景勝の地にあり、桃等の果樹農家に囲まれている。今年度創立102周年の
 幼児部、小学部、中学部、高校がある聴覚障害教育の県下唯一の特別支援学校。



- 在籍する幼児児童生徒に対して準ずる教育を行うとともに、障害による学習上または生活上の**困難を克服し、自立を図る**ために必要な知識技能を授ける。
- 県内の聴覚障害のある乳幼児児童生徒に対するセンター的機能として切れ目のない支援を発揮することが求められている。

地域の捉え方

学校が所在する山梨市

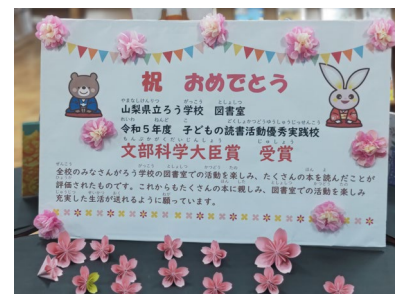
山梨全県下



本校のリソース

- ①乳幼児から高校卒業まで一貫した教育が受けられ、異年齢がともに学んでいる。
- ②聴覚障害の専門家の支援を受けられやすく、関係機関との連携が密である。
- ③地域交流・共同学習が盛んで、自治会や地域との関係も深く、地域の拠点校になっている。

	学校間交流提携先	地域交流提携先
幼稚部	加納岩保育園	山梨陶磁会
小学部	山梨市立山梨小学校	養護老人ホーム「晴風園」
中学部	笛吹市立春日居中学校	JAフルーツ山梨 加納岩支所
高等部	山梨高等学校	授産施設「山梨クリナース」
寄宿舎		手話サークル「ふえふき」 大野地区ゲートボール愛好会



スクールマスコット
ゆっぴー

- ④卒業生、元職員との結びつきが強く、様々な学校活動に協力をいただいている。
- ⑤地元事業所、就労支援施設、企業の協力が得られやすい。（就労支援施設 「くわの家」 など）
- ⑥昨年度「子どもの読書活動優秀実践校 文部科学大臣賞」を受賞し、図書活用を促進している。
- ⑦就労実習が充実していて、全県下で就労体験をしている。
- ⑧自立活動ではコーヒー豆を挽いて販売している……など

令和3年

聴覚障害教育に関する高い専門性をもつ学校と、地域、医療、福祉、労働等の関係機関が連携し、よりよい教育の実現に取り組むために、地域住民の意見書を添えて、学校運営協議会の設置を県教育委員会に要望した。

設置準備委員会を開催し、「ろう学校運営協議会の運営等に関する要綱」の作成や、推薦する委員の人選等を行った。

構成委員

地域の住民（自治会の地区区長） 保護者（PTA会長・副会長）
校長 教頭 教職員（教務・進路・支援教育・生徒指導）
学識経験者（大学の聴覚障害研究者）
関係行政機関の職員

運営に資する活動を行う者

（本校の卒業生、同窓会長、聴覚障害ヘルパー）
（元本校職員、校内教職員の研修会講師）
（元本校職員、福祉事業所代表）



令和4年

学校評議員会構成員よりも増やして15名とし、建設的に聴覚障害教育の課題と問題点の解決に意見を伺い、学校運営に参画いただくために「ろう学校運営協議会」が発足した。

令和6年

3年目を迎えてさらにブラッシュアップしていくために・・・

学校所在地	幼児児童生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
山梨県山梨市	37名	令和4年度	15名	3回	0名

学校教育目標

幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む

地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

学校・地域の特徴

- 乳幼児から高等部までの子どもが学ぶ拠点校である。
- 聴覚障害の専門性が高い人材や機関との関係が深い。
- 地域との結びつきは強く、保育園や学校、福祉施設、自治会等との交流が盛んである。

学校運営協議会の概要

委員の構成

- ・保護者の代表
- ・地域住民の方
- ・校長、教頭、教職員
- ・学識経験者
- ・地域の産業界の代表者
- ・行政機関の関係者
- ・**学校運営に資する活動をしている方**

これまでの主な議題例

- ※学校教育目標
- ※学校運営方針、活動内容
- ※各学部の教育課程、様子
- ※幼児児童生徒の課題、進路
- ※施設、設備に関する課題
- ※地域交流、共同学習の様子
- ※学校評価の検証
- ※きこえとことばの相談支援センターの活動

- ・聴覚障害にかかわる専門家が学校運営協議会に多く参画しているため、学校の課題が明確になり、学校では体験できない学習につながっている。
- ◎聴覚障害による生活上の困難さを克服して自立を図る。

知識技能を身につける機会を提供



一雨宮委員から

- 学校の資源を地域へ～（自立に向けて）～
- ◎本校の強み
 - ・教員時代の経験から
 - ・実習生などを受け入れた経験から
 - ◎委員としての提言
 - ・学校の施設、設備の活用（ハード）
 - ・教職員の活用（ソフト）



運営協議会で出てきた意見

- 地域を知る活動 地域に知ってもらおう活動 地域とともに行う活動を増やす
- 児童生徒による情報発信を積極的にやってほしい
- 図書室の開放をしてほしい
- 異年齢集団を活用した活動を増やしてほしい

創造工房くわの家とろう学校の関わり

生徒や卒業生の立ち寄りスポットとしての
創造工房くわの家

個人的な
関わり



障害者施設としての
創造工房くわの家

地域資源とし
ての関わり



学校の要望に事業所が合わせる

職場体験

総合的な学習
の時間

産業現場等に
おける実習



スタッフの積極
的な関わり

学習の場としての
創造工房くわの家

職場体験

発展した
活動

産業現場等に
おける実習

学校運営協議会委員になってからの関わり

事業所（法人）の強みを生徒に還元

- ◎ 地域にある事業所
- ◎ 聴覚障害者と支援者とのつながり

学校運営協議会委員として事業所でしたこと

実習生が在籍する山梨県立ろう学校

教育目標

「幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む」

重点指導目標

- ①あらゆる教育活動の場に発達段階に応じた**コミュニケーション活動**を位置づけ、**豊かな人間性**を育み、**言語力・コミュニケーション力**の向上を図る。
- ②個々に応じた合理的配慮によって、わかりやすい授業を実践し、学力の向上を図る。
- ③心の教育・**キャリア教育**を充実し、**社会的自立に必要な能力や態度**を育成する。
- ④家庭・**地域等との連携**及び聴覚障害教育のセンター的機能の充実を図る。
- ⑤安心・安全な学校づくり

実習生が学ぶ高等部

学部目標 『自ら学び、自ら行動する生徒』

【このようなプリントを配布しました】

学校の教育目標などを達成するための
学習の場としての創造工房くわの家

実習について
スタッフにろう学校教育目標など
と事業所の役割を説明

職場体験

産業現場等における実習

職場見学

学校運営協議会委員としての関わり

事業所の強みを生徒に還元する

産業現場等における実習などを経験

発展した活動として



くわの家販売会（ろう学校）

ろう学校での販売会への参加

- ・実習で作った商品を販売
- ・利用者さんと一緒に販売
- ・自分の学校で販売
- ・先生や友達、保護者に販売



- ・自信
- ・喜び
- ・楽しみ など

県立聴覚障害者情報センター進路見学会



情報センターでの進路見学会

- ・卒業生職員から説明を受ける
- ・有益な情報を入手する



自己肯定感
↓
◎自己有用感へ
◎Well-beingへ



学校運営協議会委員として

学校運営に参加できるというワクワク感

1 委員として思う
本校の強みや可能性

2 委員としての提言

学校運営に参加できるという責任感

各委員がそれぞれの立場でできること、考えられること
ろう学校の強みをコミュニティスクールとしていかす

私の知っているろう学校の強みを
地域へ還元できる可能性

- 地域の拠点となり得る可能性
- (乳幼児) 幼・小・中・高等部が設置されている強み
- 生徒を受け入れて認識した本校の教育力 など

地域力を本校が活用すること

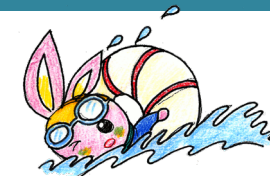
本校の力を地域へ還元する

魅力ある地域の学校へと変わっていただけるろう学校

3 学校運営協議会の今までと展望

今までやってきたこと

- 教職員研修やPTA研修の講師をやってもらってきた → 教職員の資質向上
- 就労の実習で生徒理解の上、特性に合った内容にアレンジしてもらっている → 就労意欲に繋げる
- 社会で活躍している同窓生から話を聞いたり交流の場を設けたりした → 生徒の意識の変化
- 学校の避難訓練に参加してもらう → 共生・共助の醸成



わらわらプロジェクト

児童生徒が校内を案内し、学校のいいところを語り、改善してほしいところを伝え、力を借りる
児童生徒たちが地域の方を招いておもてなしをする
生徒たちが挽いたコーヒーや作ったクッキー等を地域の方々に販売する
親子で学校に来てもらい、図書室を地域に開放し、読み聞かせサークルの活動をやってもらう
(児童・生徒たちが遊び相手や話し相手になったり、手話教室の講師になったりする)
寄宿舎の子どもたちと自治会の方たちがともに避難訓練で一次避難所体験をする
手話講座を企画し、生徒が地域の方々に手話を教える

山梨市地域

就労を希望する生徒の特性に添った事業所や作業の紹介をしてもらい、繋いでもらう
活躍している同窓生の下でのインターンシップや就労支援をしていくことで、県下に就労、
将来は地域を担う人材となってで地域に貢献していく

山梨県
地域

未来へ

自己有用感

地域を作る

Well-beingへ